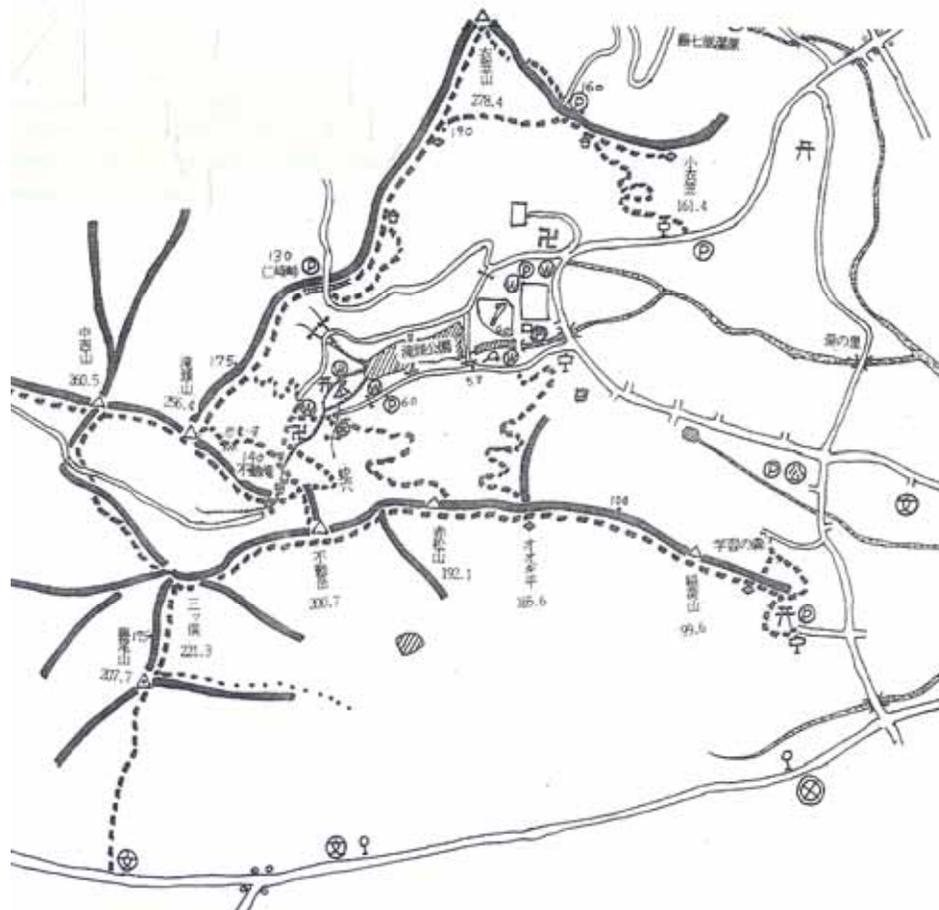


稲荷山周辺の自然歩道



* 1993年3月 たらめ会作成による「衣笠自然歩道」より一部抜粋して転載

自然保護憲章

- ・自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
- ・自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
- ・美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

昭和49年6月5日制定

(写真引用文献)

ヤマウルシ、リョウブ、ゴンズイ:おくやまひさし著「里山図鑑」(2001)ポプラ社
オニグルミ、クサギ、クズ、イヌザンショウ、フジ、カラスザンショウ:富成忠夫・茂木透(写真)長新太(文)「ふゆめがっしょうだん」(1986)福音館書店
カキノキ:茂木透(写真)「樹に咲く花(山溪ハンディ図鑑5)」(2001)山と溪谷社

2004年 定例自然観察会

稲荷山・滝頭公園の自然観察



ヤマウルシの冬芽と葉痕

12月12日(第10回)

主催:NPO法人東三河自然観察会
後援:田原市・田原市教育委員会

冬本番 !!!

植物も動物も冬越しに向けてせっせと準備しています。

これから準備するものもいれば、もう終わって冬越しに入っているものもいます。

今日は、植物の冬越しを観察しましょう。

植物の冬越しは、種で、地下の球根や地下茎で、地面にはり付いた様なロケットで、しっかりしたウロコ状の鱗片や毛でおおわれた冬芽(ふゆめ、とうがとも読みます)でと様々です。

特に今回は木の芽(冬芽)に注目!!!

ところで、冬芽と一緒に忘れてはならないものに葉痕(ようこん、葉の落ちた痕)があります。これも楽しく観察できます。

冬芽や葉痕の多くはとても小さく、それらを肉眼で見ようと思ってもなかなかできません。特に冬芽や葉痕の形状からその樹木の名前を調べる時には、冬芽を包む芽鱗(がりん)の枚数や、葉痕と維管束痕(いかんそくこん)の形、毛の有無などが重要な決め手となりますので、10倍程の虫眼鏡があるとより楽しく、また正確に観察ができます。カキノキやカラスザンショウなどは葉痕を見ただけで、その面白い顔から(維管束痕が目や口に見える)木の種類がすぐに判ります。

いろいろな植物で冬芽や葉痕を探しましょう。



オニグルミ



リョウブ



ゴズイ



クサギ



クズ



カキノキ



イヌザンショウ



フジ



カラスザンショウ